

## 地域の概要



田崎自治会は、薩摩川内市の田崎町と永利町を含む地域である。昭和50年代までは、150世帯、人口500人程度の農村でしたが、昭和60年代になると宅地開発が進み、現在では約800世帯、人口2,000人を超える人口急増地帯となった。

## 取組のきっかけ

高齢者クラブ代表の「自分たちの地域のことは自分たちで考えよう」という思いから、「見守り会議」は立ち上がった。見守り会議の際に「住民支え合いマップ」を取り入れる事で専門職とも連携し、より見守り体制の充実を図る事を目指している。

## 取組の目的

- 見守りネットワークの構築
- 高齢者のひきこもり予防
- 生活支援の体制整備
- 専門機関との連携

## これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年10月	お互い様の関係をつくり見守り見守られの関係を作っていきたい 見守りマップ（支え合いマップ）を鶴亀会（高齢者クラブ）の集まりの場で作成
	高齢者クラブだけで考えるのではなく自治会として考えていく仕組みをつくる
令和5年5月	見守りマップを「見守り会議」として継続し情報を共有
	田崎自治会の仕組みづくりの表を作成しみんなで共有「選択していける場所」
令和5年12月	見守り会議で、「生活支援」や「ボランティア」についてみんなで勉強
令和6年	見守り会議を年に2回開催していく

## 活動の概要

田崎自治会では、半年に1回「見守り会議」を開催、その場で「住民支え合いマップ」の更新を行っている。現在、その場から生活支援体制の構築に向け活動を展開している。



[参加者]  
 民生委員  
 自治会長  
 健やか支援アドバイザー  
 サロン代表者  
 高齢者クラブ代表  
 地域住民

自治会の住民の生活支援の相談に対し、見守り会議の場で支援体制を話し合う。民生委員を中心とした有志の方々で対応、今後は自治会独自のボランティア団体の立ち上げも視野に入れている。

## 事例における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

### [行政担当者としての役割]

- SCと定期的な情報共有
- SCの活動のフォロー
- 自治会のニーズ把握

### [SCとしての役割]

- 住民支え合いマップ時の聴取と記録
- マップから把握した地域課題解決に向けた取り組みの提案とマッチング
- 自治会独自のボランティア団体の立ち上げと継続に向けた調整

## 現時点での到達点（効果・課題など）

### [効果]

- サロンの参加者が増えている
- 地域行事へ男性の参加者が増えている
- 地域住民同士、自分たちの地域について考えている
- 個別課題に対し、自治会内の助け合いで対応できている

